

古文「重要名詞・時の古語」100題ドリル 問題編

無料ダウンロード（縦書き・印刷可）

古文の名詞には、形は今と同じでも意味が大きくずれるものが数多くあります。たとえば「つとめて」は「勤めて(努力して)」ではなく「早朝」、「けしき(気色)」は自然の「景色」ではなく人の「様子・機嫌」。「ほど」「よし」「こころ」のように、一語でいくつもの意味を持つ多義語もあります。このドリルでは、傍線部の名詞(太字)の意味を答えます。まず自分で考えてから、下の「答え・解説」を確認しましょう。

とくに重要なのは次の点です。「つとめて」||早朝(前夜を受ければ翌朝)、「あした」||朝(明日ではない)、「よ」||夜/世(同音異義)。多義語は「ほど」||時間・距離・程度・身分、「よし」||理由・由緒・手段・くとのこと(趣旨)、「こころ」||心・意味(趣旨・分別)、「けしき(気色)」||様子・機嫌(景色ではない)。同じ語でも例文の文脈で意味が変わるので、訳し分けの感覚を養いましょう。全100問、例文と答え・解説はすべて整合させ、出典を断定できないものは文法的に正しい作例(出典なし)にしています。

Q1. 冬はつとめて、いみじう寒きに火など急ぎおこして。

Q2. 昨夜の雨やみて、つとめて見れば庭に紅葉散り敷きたり。

Q3. 春はあけぼの、やうやう白くなりゆく山ぎは。

Q4. あしたに死し、ゆふべに生るるならひ。

Q5. 祭りのあした、人々なほ騒がし。

Q6. ゆふべの鐘の音、心細く響く。

- Q7. よもすがら、虫の音やまず。
- Q8. よの中の定めなきこそ、あはれなれ。
- Q9. ひとのよのはかなきを思ふ。
- Q10. 帝の御よ、めでたくおぼゆ。
- Q11. ほどなく日も暮れぬ。
- Q12. 二、三日がほど、雨降り続く。
- Q13. そのほどにあらぬ人に嫁がす。
- Q14. おとなびたるほどになりけり。
- Q15. 悲しきのほど、言ふかたなし。
- Q16. 参らぬよしを申し上ぐ。
- Q17. この池のよし、いとふるし。
- Q18. かく言ふよしを尋ぬ。
- Q19. 雨の降るゆゑに、出でやらず。
- Q20. 人のところは移ろひやすし。

- Q21. この歌のこころを解す。
- Q22. ものこころなき人にはあらず。
- Q23. け近く召し寄せて語らふ。
- Q24. もの恐ろしきけあり。
- Q25. けしきあしくて立ち去りぬ。
- Q26. 空のけしき、ただならず。
- Q27. 人々のけしきをうかがふ。
- Q28. 都のありさまを語り聞かす。
- Q29. 年ごろのほいかなひぬ。
- Q30. 出家のほいを遂げけり。
- Q31. ほいなくて帰りぬ。
- Q32. ものあはれは秋こそまされ、と言ふついでに。
- Q33. ことついでを語る。
- Q34. 雪の降るをりは、また趣ふかし。

- Q35. よきをりに申し出でばや。
- Q36. 昔のためしを引きて諫む。
- Q37. せうそこを書きて遣はす。
- Q38. 門の前にてせうそこす。
- Q39. 恋しき人よりふみ来たり。
- Q40. ふみの道に深き人なり。
- Q41. 旅のものがたりを夜もすがらす。
- Q42. 古きものがたりを読みふける。
- Q43. 夢かうつつか、定かならず。
- Q44. もの思ひにうつつなし。
- Q45. はかなきゆめを見て嘆く。
- Q46. 客人のまうけ、おさおさ怠らず。
- Q47. わがみのおこたりを恥づ。
- Q48. みのほどを知る人ぞよき。

- Q49. かたちうるはしき女房なり。
- Q50. 月のかたち、欠けゆくを惜しむ。
- Q51. この人のこころばへ、いとやさし。
- Q52. 庭の木立のこころばへ、おもしろし。
- Q53. もてなしによくい深き主なり。
- Q54. 世に語り伝ふること多かり。
- Q55. ややしきことの葉をかはず。
- Q56. なさけある人の言葉、身にしむ。
- Q57. ものなさけなきふるまひ。
- Q58. 秋の夕暮れのあはれ、言ふかたなし。
- Q59. 命のかぎり、近づきぬ。
- Q60. あるかぎりの人、集まりぬ。
- Q61. 子といふほだし、思ひ捨てがたし。
- Q62. すきの道に名を得たる人。

- Q63. 問へどいらへもせず。
- Q64. さとに下りて、しばし休らふ。
- Q65. みやづかへのいそがしきを嘆く。
- Q66. うちにさぶらふ女房たち。
- Q67. 虫のね、よわりゆくも哀れなり。
- Q68. ねを泣きて別れを惜しむ。
- Q69. 簾のつまを風が吹きあぐ。
- Q70. わがつまとたのみし人。
- Q71. つごもりの月の見えぬ夜。
- Q72. 正月ついたち、雪降る。
- Q73. としごろ思ひしことの叶ふ。
- Q74. ひごろの願ひ、今日かなふ。
- Q75. 雲のひまより月さし出づ。
- Q76. よきたよりを得て都へのぼる。

- Q77. 風のたよりに聞きし噂。
- Q78. おもてを赤らめてうつむく。
- Q79. つれなき人のうらみ、深し。
- Q80. 夢のおどろきに、夜深く起きぬ。
- Q81. 月の夜のおそび、たへなりけり。
- Q82. 亡き人のかたみを見て偲ぶ。
- Q83. よはひかたぶきて、なほ字ぶ。
- Q84. 舟のゆくへも知らず漂ふ。
- Q85. 別れのなごり、惜しまるる。
- Q86. 年の初めのあらましを語る。
- Q87. 祈りのしるしありて、病癒えぬ。
- Q88. 吉事のしるしとぞ見ゆ。
- Q89. あけくれ、文を読みて過ぐす。
- Q90. いにしへの歌人を慕ふ。

Q91. 子のゆくすゑを思ひやる。

Q92. 入相(いりあひ)のほど、鐘の音聞こゆ。

Q93. わが身のほどを顧みる。

Q94. 旅立ちのよしを母に告ぐ。

Q95. みづから訪(と)ふよしもなし。

Q96. ころこのうちを明かさず。

Q97. この絵のころこを解す。

Q98. もてなしのけしき、ねんごろなり。

Q99. をりふしのをりにかなふ。

Q100. 命あるかぎりは仕へむ。